令和５年度　特別支援教育セミナー

７月 28日（金）、本校食堂に於いて特別支援教育セミナーが開催されました。4名の先生方による3つの事例発表は特別支援教育の専門知識や日々の支援の在り方について理解を深めるものとなり、とても充実したセミナーとなりました。

お忙しい中、また暑い中多くの方にご参加いただき、大変ありがとうございました。

事例発表①「支援の一助となる検査」

○児童家庭支援センター大洋　支援相談兼心理療法士　大和田 綾子

諸検査のねらいや役割、長所、短所等について説明。また検査だけではなく、普段の学習や生活上での観察や対応、エピソード等に指導、支援のヒントがあることを発表。

アンケートより

・検査を受ける児童の気持ち、保護者との合意形成などを意識していきたい。

・検査の結果を日々の教育活動に活用していきたい。

・検査ありきではなく、日々の見取り、対応こそが最も大切であることを分かりやすく学ばせていただいた。

事例発表②「通常学級における支援 ～困り感をもつ子どもたちの笑顔を増やすために～」

○住田町立世田米小学校　教諭　原野 悦子

ユニバーサルデザインを取り入れた学級、授業づくりや特別支援学級、通級指導教室との連携について校内の取り組み事例を発表。通級指導教室（ことば、まなびの教室）の役割や活用事例についても紹介。

アンケートより

・視覚支援を使った学級掲示の工夫や、発達段階を考えられた表現を見ることができて良かった。

・先生が孤立しないための校内体制として、チームや共有しやすい職場の雰囲気の大切さを教えていただいた。

・生徒一人一人の自己肯定感をもたせながら、全員で生徒を育てることが大切なのだと改めて教えていただいた。

事例発表③「性に関する指導実践事例について　」

○岩手県立気仙光陵支援学校　教諭　宮野 大輔　　養護教諭　福士 優

プライベートゾーンやパーソナルスペース、二次性徴による心や体の変化について等、本校高等部の取り組み事例を発表。ことを発表。言葉による説明だけでなく、視覚支援やロールプレイングを用いた学習の仕方を紹介。

アンケートより

・どう扱ったらよいか、指導したらよいか迷いがあったが今回の発表がとても参考になった。

・性指導の大切さは避けて通れないテーマだと思う。真摯に取り組んでいる実践発表を聞いてとても感銘を受けた。

・プライベートゾーンなどについては、未就学の子どもたちから伝えていくのも良いと思った。